

2019年度 専門看護師活動実態調査結果（第1報）

I. 調査概要

1. 調査目的

専門看護師数の増加及び活動の推進のための示唆を得るために、専門看護師の資格取得に至るまでの過程や資格取得のために必要な支援を明らかにする。また、専門看護師としての活動の実態を把握する。

2. 調査対象

2019年12月上旬時点で登録されている全専門看護師（2,242名）

3. 調査期間

2019年12月2日（月）0：00～27日（金）12：00

4. 調査方法

インターネット調査（個人にID、パスワードを付与し、調査画面にログインして回答）

5. 回収状況

有効回収数 838名（有効回収率 37.4%）

II. 結果の概要

1. 回答者の属性

1) 年齢、看護職としての通算経験年数、専門看護師資格取得後年数等

- ・回答者の平均年齢は45.1歳（±6.72）、看護職としての通算経験年数は平均21.3年（±6.82）、最終学歴は、「修士課程」94.6%、「博士課程」5.1%であった。
- ・専門看護師資格取得後の年数は平均6.5年（±4.0）で、資格取得後10年に満たない者の割合は77.9%であった。
- ・全認定者の登録情報と比較したところ、全認定者の平均年齢は44.4歳で、回答者の方が0.7ポイント高かった。また、全認定者のうち資格取得後10年に満たない者の割合は82.4%で、回答者の方が4.5ポイント低かった。

2) 専門看護分野

回答者の専門看護分野は「がん看護」34.7%、「精神看護」15.5%、「急性・重症患者看護」11.0%の順で、これは、全認定者の登録情報とほぼ同じ割合であった。

3) 特定行為研修の受講

特定行為研修の受講状況については、「修了済」1.2%、「受講中」0.4%、「未受講」98.3%であった。

4) 就業状況

- ・現在「就業している」と回答した割合は97.9%で、その就業先は「病院」が78.8%と最も高く、次いで「教育研究機関」13.2%、「訪問看護ステーション」4.4%の順であった。また、現在の所属施設の勤続年数は、平均10.4年(±8.1)であった。
- ・「病院」に勤務している者の場合、その設置主体は、「都道府県・市町村」18.3%、「私立学校法人」16.9%、「国立大学法人」10.7%、「医療法人」10.2%の順であった。また、病院種別は「一般病院」40.6%、「特定機能病院」35.1%、「地域医療支援病院」19.3%の順で、病床数は、「500床以上」が56.8%と最も高く、「400～499床」18.6%、「300～399床」12.4%の順であった。さらに、配属部署は「病棟」28.8%、「看護管理部」24.6%、「外来」13.2%の順であった。

5) 職位

就業先を「病院」または「訪問看護ステーション」「診療所」「社会福祉施設・介護保険施設等」と回答した場合の職位は、「スタッフ(非管理職)」39.3%、「主任相当」32.5%、「看護師長相当」16.8%であった。また、「教育研究機関」と回答した場合の職位は、「助教」43.5%、「講師」28.7%、「准教授」14.8%であった。

6) 待遇等

- ・所属施設や配属部署が「専門看護分野と関連がある」と回答した割合は85.6%であった。
- ・専門看護師として「専従での配置である」と回答した割合は30.1%であった。
- ・専門看護師として毎月「資格手当の支給がある」と回答した割合は30.9%で、その支給額は「5,000～1万円未満」が42.7%と最も多く、次いで「3,000～5,000円未満」19.4%、「1～1.5万円未満」15.8%の順であった。

2. 専門看護師資格の取得までの過程について

<修士課程進学から修了までの過程>

1) 進学時の状況

- ・修士課程進学時の看護職としての経験年数は平均 11.9 年（±6.22）であった。
- ・進学した修士課程は「専門看護師教育課程（26 単位）」が 78.2%、「専門看護師教育課程（38 単位）」16.3%、「専門看護師教育課程ではない」5.3%であった。
- ・教育機関を選択する時に重視したことは、「指導教員の専門とする内容と学びたい内容が合致している」56.2%、「教育機関までの距離が近い」54.8%、「学費が安い」29.4%、「カリキュラムの内容が学びたい内容と合致している」28.9%の順であった。
- ・専門看護師を目指した動機は、「専門性を深めたい」82.9%、「知識・技術の向上のため」76.6%、「自己の課題の解決のため」65.3%であった。（図 1）

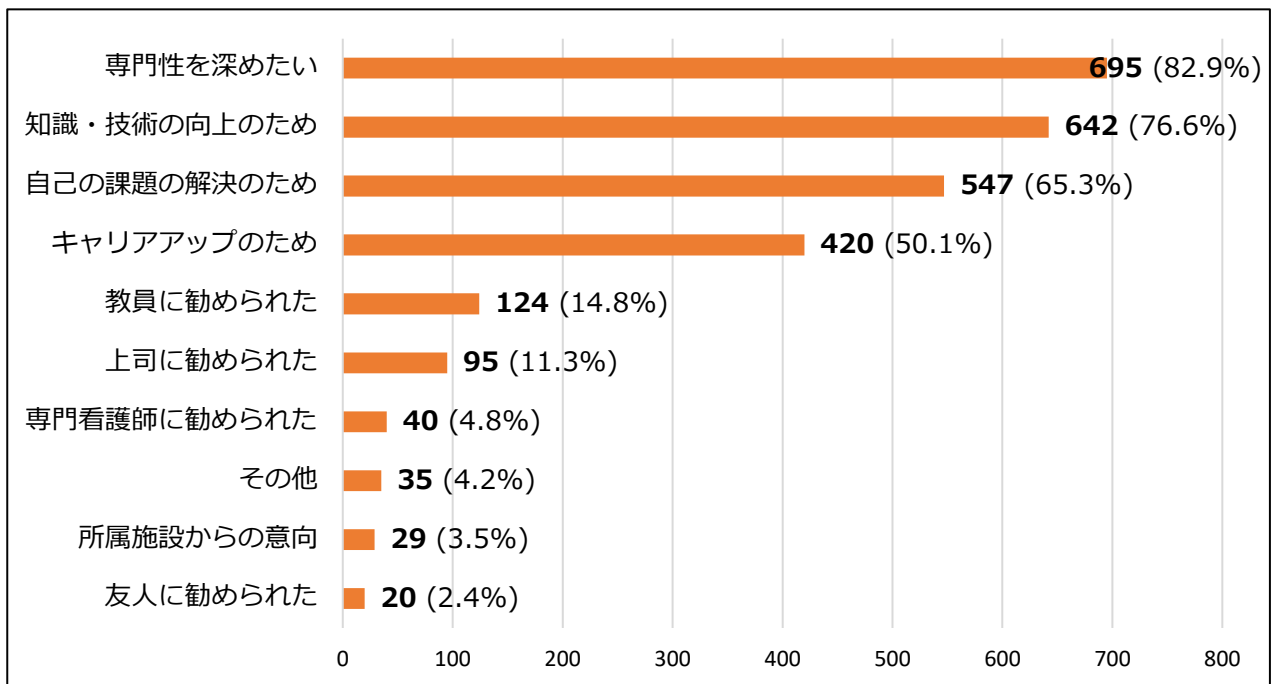


図 1 専門看護師を目指した主な動機（複数回答） n = 838

2) 就学期間

「2 年」が 80.9%、「3 年以上の修士課程（長期履修）」が 17.7%であった。

一方、修士課程入学から修了までに実際に要した年数は平均 2.3 年（±0.61）で、「2 年」が 79.0%と最も多く、「3 年」17.8%、「4～5 年」3.0%の順であった。

3) 就学中に活用した教育機関からの支援

「なし」が 35.1%と最も高く、次いで「ティーチングアシスタント等の学内就労制度」30.2%、「講義の開講時間の調整（夕方や休日開講等）」19.4%、「学内の奨学金制度」15.3%の順であった。

4) 就学中の就労状況

- ・「常勤職員として、所属していた施設で就労」24.9%、「施設に所属はしていたが、休職」21.7%、「非常勤職員として、所属していた施設で就労」4.1%であった。一方、「所属していた施設を退職」した割合は42.1%であった。(図2)

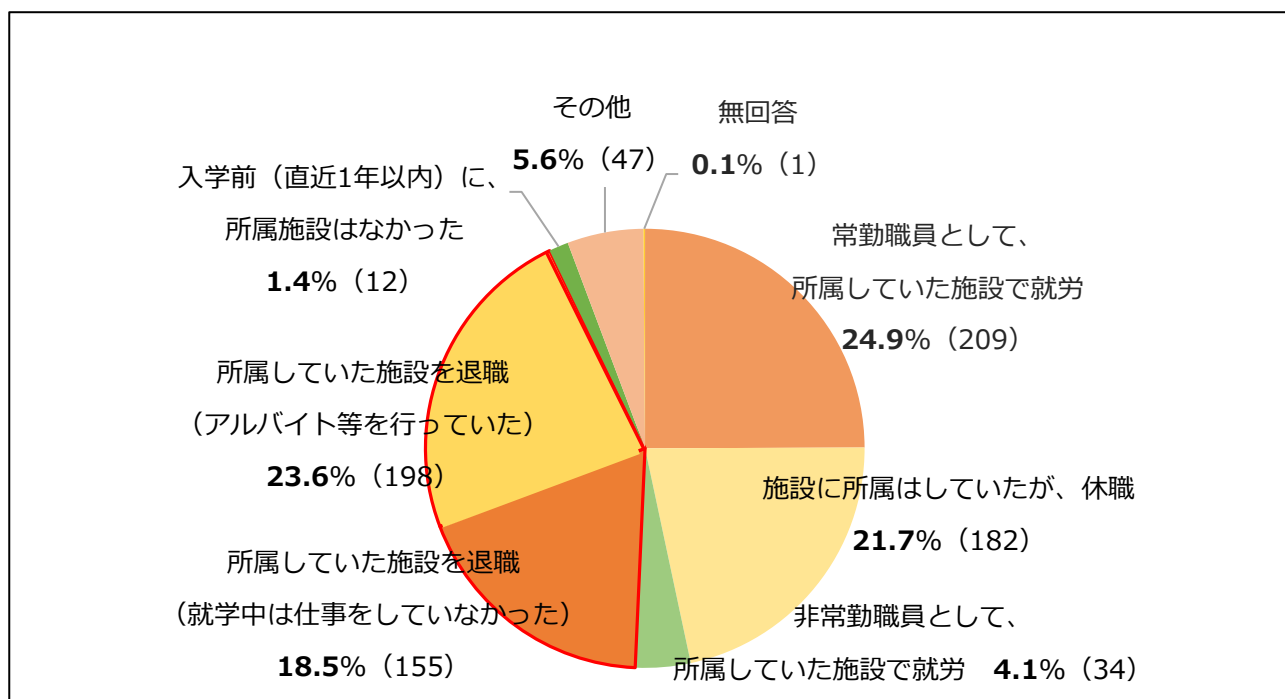


図2 就学中の就労状況 n=838

- ・就学中の就労状況で、「常勤職員として、所属していた施設で就労」「施設に所属はしていたが、休職」「非常勤職員として、所属していた施設で就労」と回答した者の賃金は、「基本給の全額支給」と「基本給の一部支給」を合わせた割合が58.8%である一方、「支給なし」は31.8%であった。また、健康保険等の福利厚生は「あり」82.1%、「なし」17.4%であった。(図3)

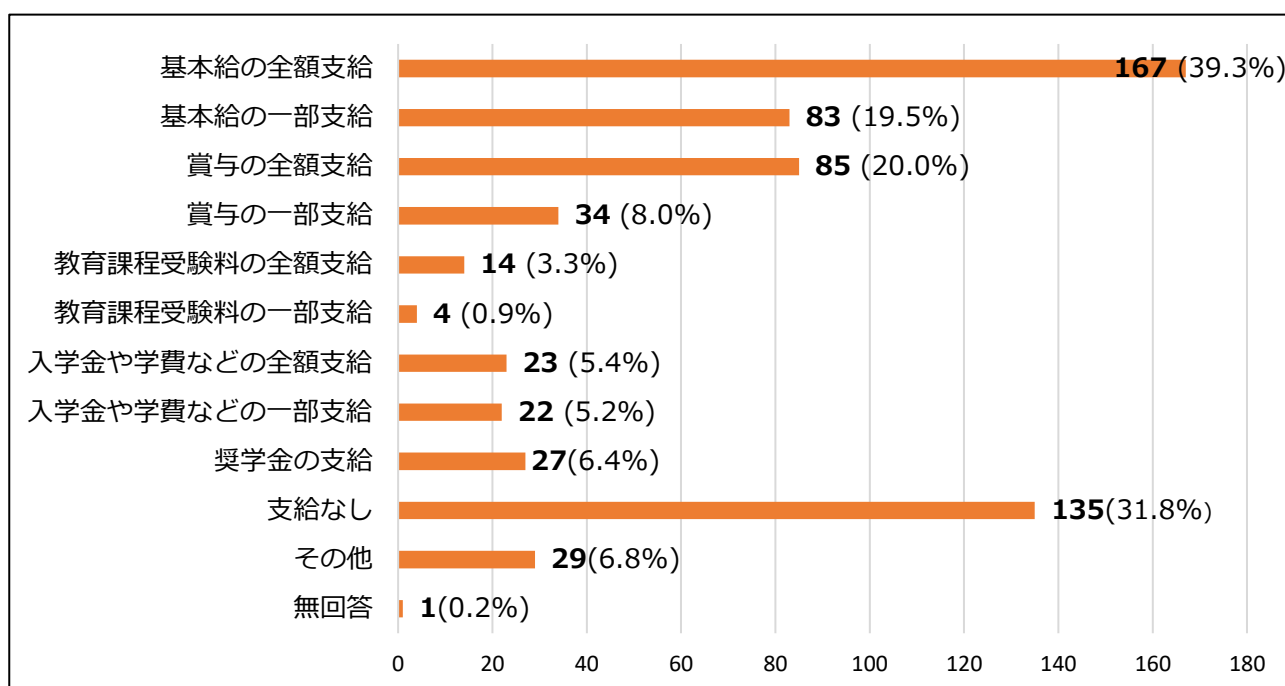


図3 就学中の賃金(複数回答) n=425

- ・就学中の就労状況で、「所属していた施設を退職」した理由は、「就業しながら学業を行う時間がない」が51.0%と最も多く、「休職制度がなかった」44.2%、「教育機関が職場から遠かった」29.2%、「入学の要件で就業が禁止されていた」11.0%、「所属施設が進学を許可しなかった」9.9%の順であった。(図4)

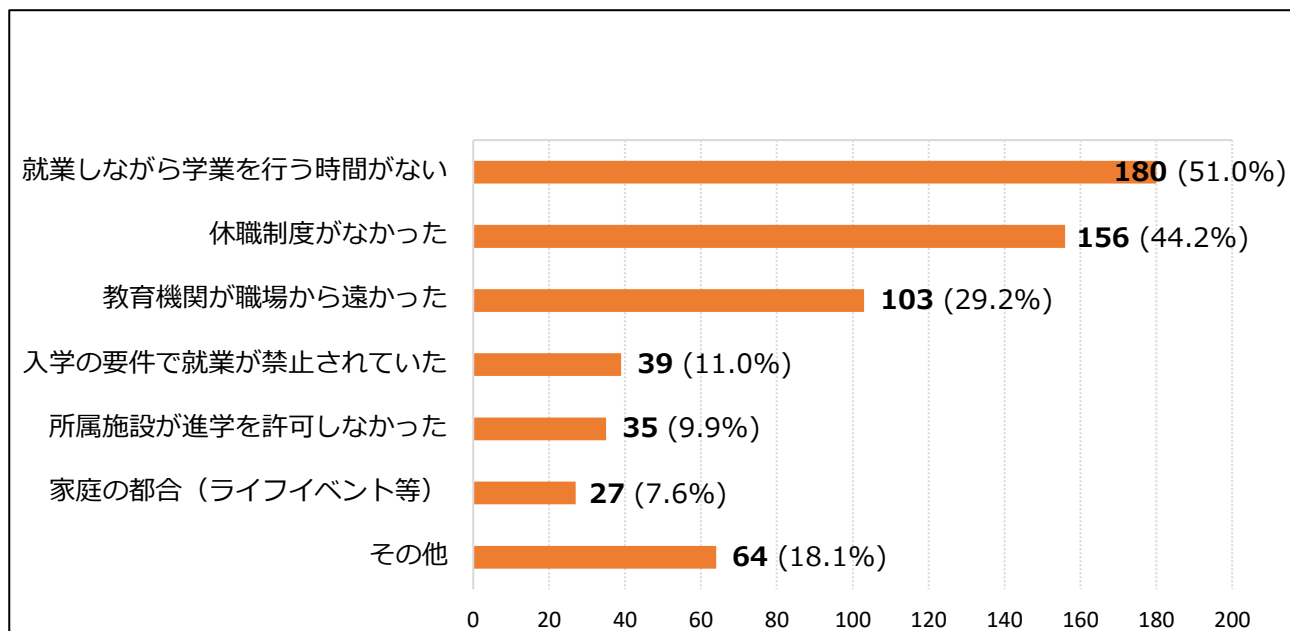


図4 退職の理由 (複数回答) n = 353

5) 就学中に活用した所属施設からの支援

就学中の就労状況で、「常勤職員として所属していた施設で就労」「非常勤職員として、所属していた施設で就労」と回答した者が活用した所属施設からの支援制度は、「長期研修制度」14.8%、「奨学金・学費の補助」14.0%、「短時間勤務制度」5.3%であった。一方、就学するために必要だと考える支援制度は、「奨学金・学費の補助」63.4%、「休職制度」58.8%、「長期研修制度」55.6%、「短時間勤務制度」52.7%の順であった。また、就労継続のために所属施設で調整が必要となったことは、「シフトの調整」が74.5%、「部署の配置の変更」が19.3%であった。

<専門看護師認定審査受験までの過程>

1) 修士課程修了から認定審査受験までの年数

「1年未満」49.0%、「1年以上2年未満」27.8%、「2年以上3年未満」8.0%の順であった。

2) 認定審査受験に際し困難に感じたこと

「看護実績報告書の作成」が69.6%と最も高く、次いで「就業しながらの受験勉強」42.1%、「申請書類の準備（証明書等の取り寄せ）」32.5%であった。（図5）

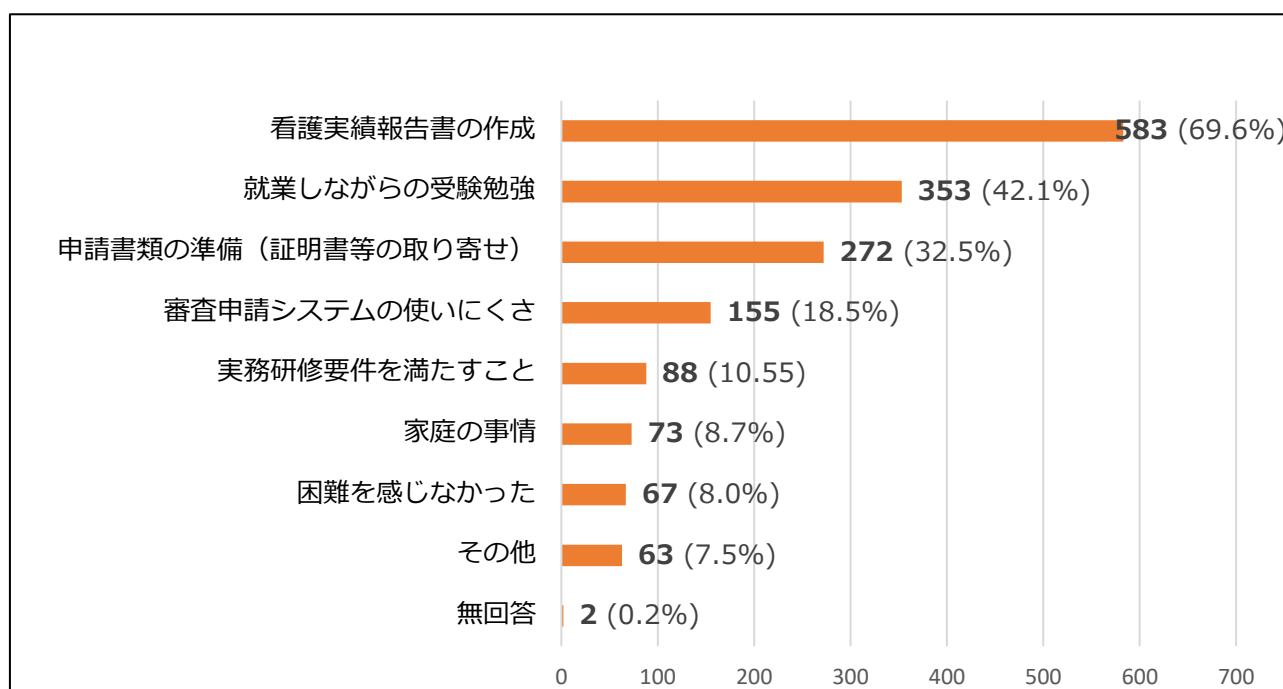


図5 認定審査受験に際し困難に感じたこと（複数回答） n=838

3) 認定審査受験に向けた教育機関の指導教員からの支援

「看護実績報告書作成の支援」58.1%、「不安なことや困ったことを相談できる環境」41.1%の順であった。一方、「支援は受けていない」という回答も24.6%あった。

4) 認定審査受験に向けた所属施設からの支援

「支援は受けていない」が62.4%と最も高く、次いで「不安なことや困ったことを相談できる環境」15.0%、「当該分野への配置変更」11.5%、「看護実績報告書作成の支援」11.0%の順であった。

3. 専門看護師としての活動について

<所属施設内の活動>

1) 専門看護師としての活動の場やチーム（所属先が病院等の場合）

「病棟」が64.4%と最も高く、「一般外来」39.3%、「教育部門」30.1%、「看護専門外来」25.5%の順であった。（表1）

表1 専門看護師としての活動の場やチーム；所属先が病院等の場合（複数回答）

活動の場やチーム	n = 662	
	n	(%)
病棟	426	(64.4)
一般外来	260	(39.3)
看護専門外来	169	(25.5)
ユニット（ICU等）	110	(16.6)
救命救急センター	69	(10.4)
地域連携室/在宅支援部門	104	(15.7)
放射線室	33	(5.0)
手術室	13	(2.0)
化学療法室	85	(12.8)
感染対策室	23	(3.5)
緩和ケアチーム	181	(27.3)
呼吸ケアサポートチーム（RST）	46	(6.9)
院内救急対応（RRT）	25	(3.8)
精神科リエゾンチーム	71	(10.7)
糖尿病関連チーム	33	(5.0)
在宅支援チーム	28	(4.2)
認知症ケアチーム	68	(10.3)
教育部門	199	(30.1)
その他	134	(20.2)
無回答	3	(0.5)
全体	662	(100.0)

2) 専門看護師としての活動の場やチーム（所属先が教育研究機関の場合）

教育研究活動以外の活動の場は「病棟」が25.0%と最も高く、「教育部門」18.5%、「看護専門外来」18.5%、「一般外来」16.7%の順であった。（表2）

表2 専門看護師としての活動の場やチーム；所属先が教育研究機関の場合
（複数回答） n=108

活動の場やチーム	n	(%)
病棟	27	(25.0)
一般外来	18	(16.7)
看護専門外来	20	(18.5)
ユニット（ICU等）	6	(5.6)
救命救急センター	3	(2.8)
地域連携室/在宅支援部門	1	(0.9)
放射線室	1	(0.9)
手術室	0	(0.0)
化学療法室	3	(2.8)
感染対策室	2	(1.9)
緩和ケアチーム	3	(2.8)
呼吸ケアサポートチーム（RST）	1	(0.9)
院内救急対応（RRT）	0	(0.0)
精神科リエゾンチーム	3	(2.8)
糖尿病関連チーム	2	(1.9)
在宅支援チーム	7	(6.5)
認知症ケアチーム	1	(0.9)
教育部門	20	(18.5)
その他	31	(28.7)
無回答	32	(29.6)
全体	108	(100.0)

3) 活動の場を確保するための取り組み

活動の場を確保するために役に立った行動は、「活動計画書の作成」50.5%、「組織分析による課題の抽出」50.2%、「活動報告書の作成」43.6%、「活動計画についてのプレゼンテーション」42.5%であった。(図6)

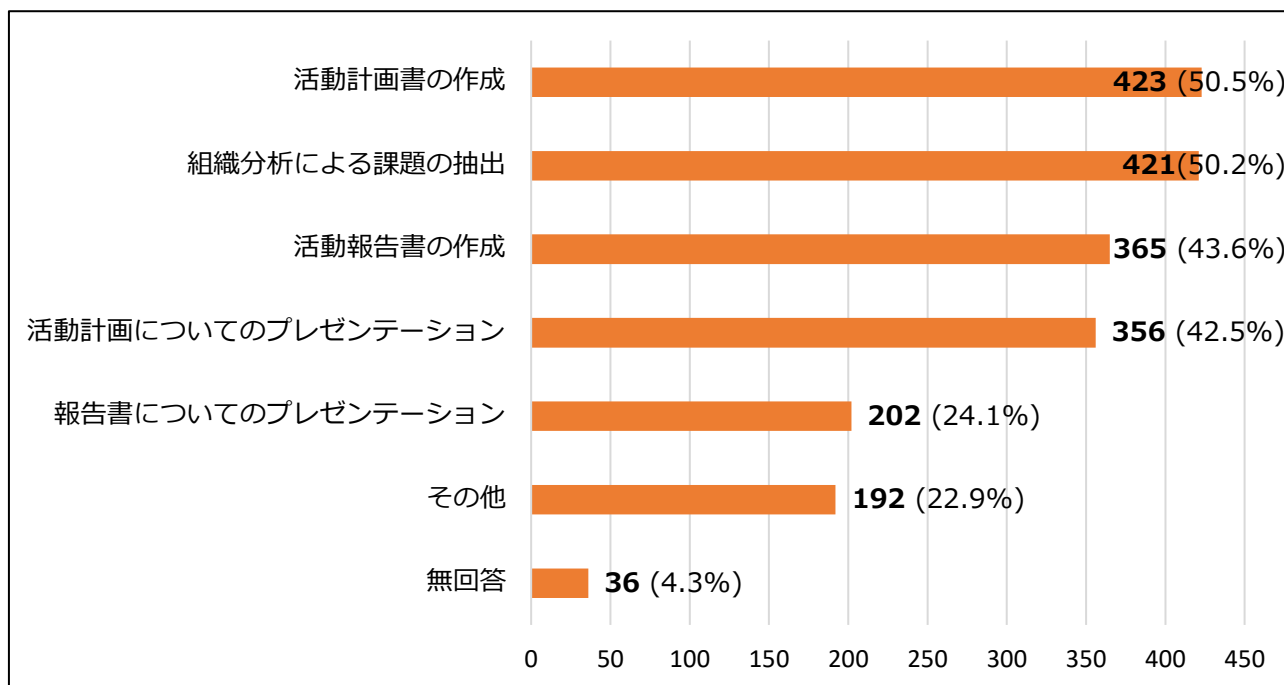


図6 活動の場を確保するために役に立った行動（複数回答） n=838

4) 最も成果をあげた役割

専門看護師の6つの役割のうち、「実践」が33.7%と高く、次いで「教育」18.5%、「調整」15.2%、「相談」13.8%、「倫理調整」11.1%、「研究」7.0%の順であった。(図7)

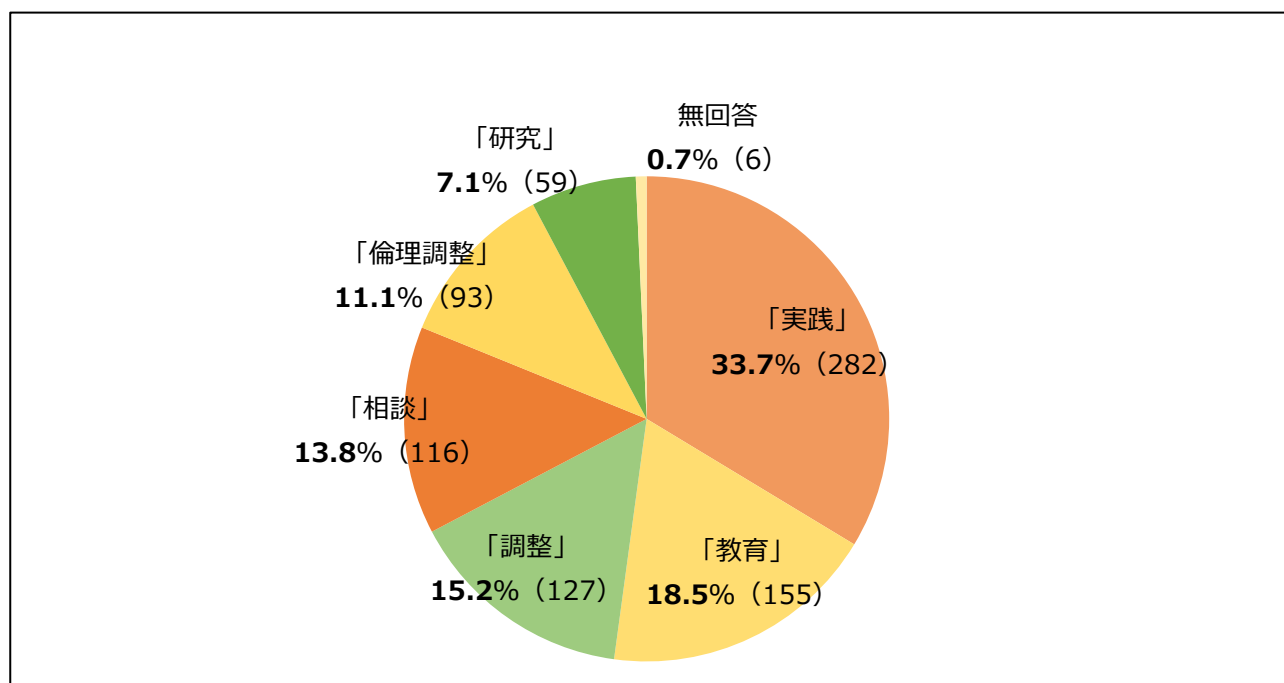


図7 最も成果をあげている専門看護師の役割 n=838

5) 役割ごとの成果の程度

役割ごとの成果について、「かなりあげている」「多少あげている」「全くない」の3段階で回答を求めたところ、「多少あげている」と「かなりあげている」を合わせた割合は、「教育」が95.1%と最も高く、次いで「実践」94.5%、「相談」91.9%、「調整」87.1%、「倫理調整」86.8%、「研究」80.6%であった。(表3)

表3 役割ごとの成果の程度

n = 838

	かなりあげている	多少あげている	全くない
実践	317 (37.8%)	475 (56.7%)	46 (5.5%)
相談	254 (30.3%)	516 (61.6%)	68 (8.1%)
調整	255 (30.4%)	475 (56.7%)	108 (12.9%)
倫理調整	176 (21.0%)	551 (65.8%)	111 (13.2%)
教育	337 (40.2%)	460 (54.9%)	41 (4.9%)
研究	127 (15.2%)	548 (65.4%)	163 (19.5%)

6) 最も困難な役割

・「研究」が50.5%と最も高く、「倫理調整」17.5%、「相談」11.3%の順であった。(図8)

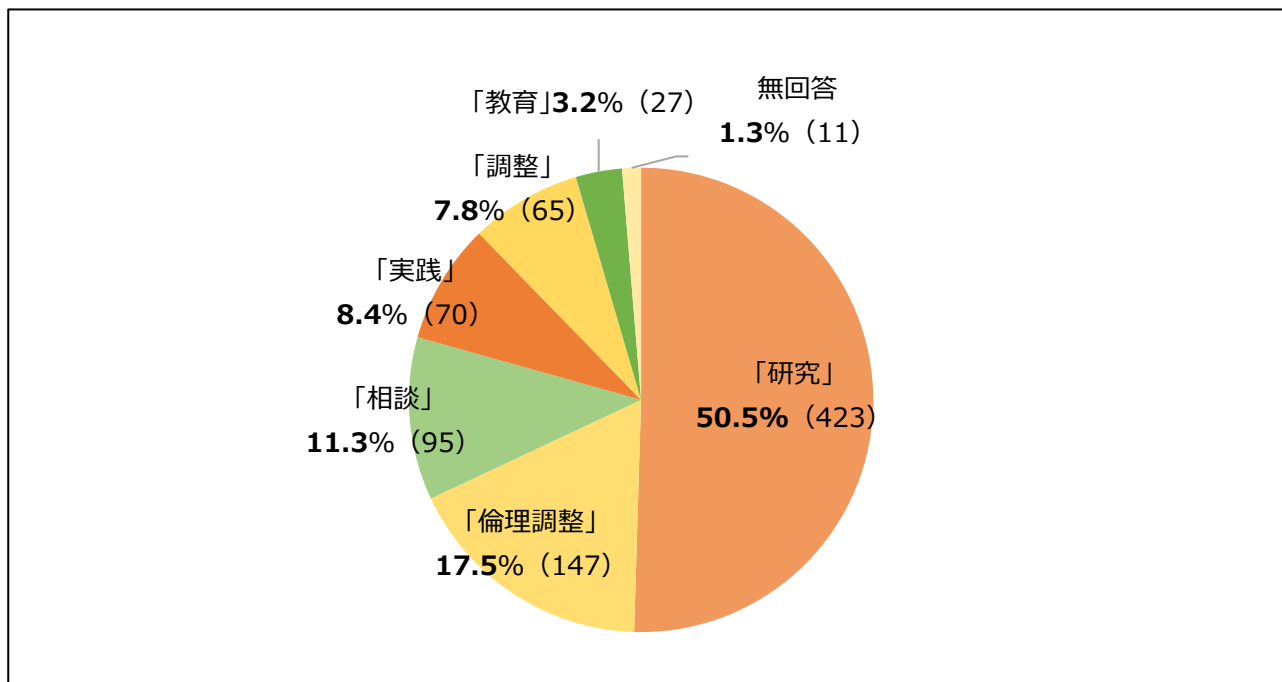


図8 最も困難を感じる専門看護師の役割 n = 838

7) 相談相手

活動にあたり、困難を抱えた際の相談相手は「直属の上司」が54.2%と最も多く、次いで「所属施設外の専門看護師（ネットワーク）」53.8%、「同施設内の専門看護師（他分野）」28.9%、「専門看護師教育課程の教員」26.0%の順であった。（図9）

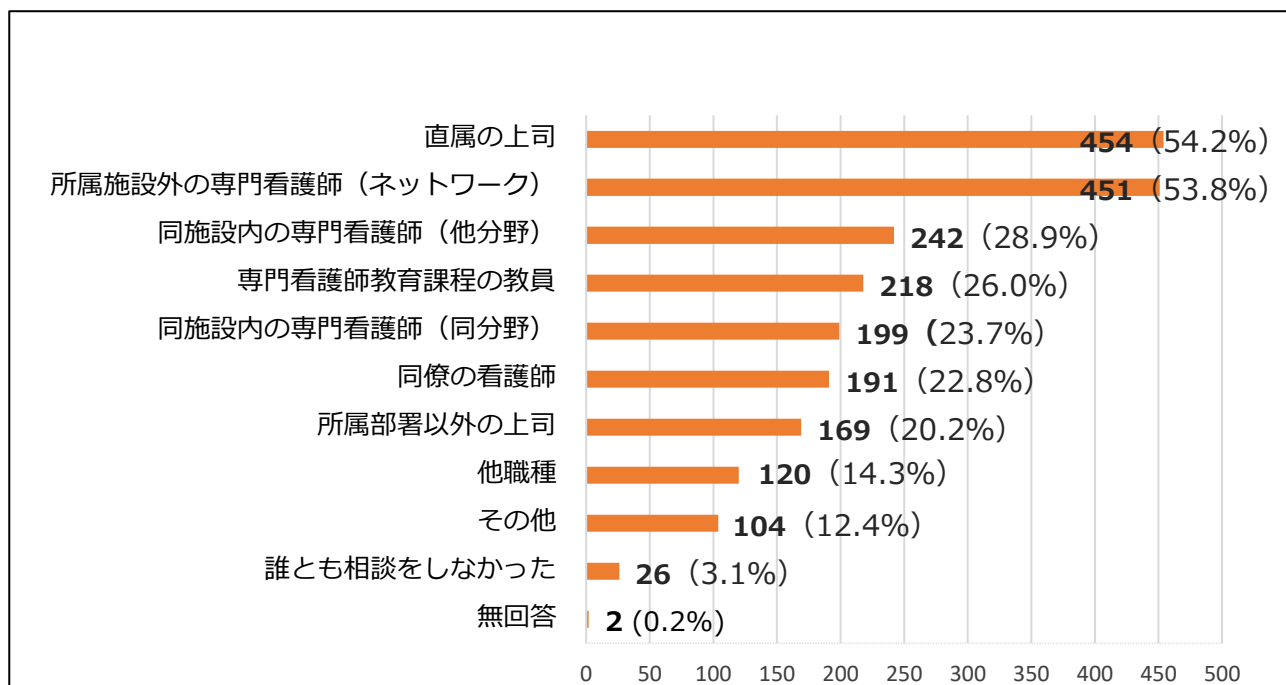


図9 活動にあたり、困難を抱えた際の相談相手（複数回答） n=838

9) 診療報酬上の評価

活動により診療報酬上の評価が認められている項目は、「がん患者指導管理料ロ」27.2%、「がん患者指導管理料イ」26.8%、「緩和ケア診療加算」10.7%であった。一方、「加算にはつながっていない」と回答した割合は37.6%であった。(表4)

表4 活動により診療報酬上の評価が認められている項目(複数回答)

項目	n = 838	
	n	(%)
在宅患者訪問看護・指導料3	43	(5.1)
緩和ケア診療加算	90	(10.7)
精神科リエゾンチーム加算	57	(6.8)
感染防止対策加算1	18	(2.1)
呼吸ケアチーム加算	39	(4.7)
認知症ケア加算1	54	(6.4)
特定集中治療室管理料1	19	(2.3)
特定集中治療室管理料2	16	(1.9)
糖尿病合併症管理料	33	(3.9)
がん患者指導管理料イ	225	(26.8)
がん患者指導管理料ロ	228	(27.2)
外来緩和ケア管理料	47	(5.6)
糖尿病透析予防指導管理料	35	(4.2)
同一建物居住者訪問看護・指導料3	13	(1.6)
加算にはつながっていない	315	(37.6)
その他	98	(11.7)
無回答	22	(2.6)
全体	838	(100.0)

10) 活動を評価する臨床指標

専門看護師としての活動の成果や効果を評価するための臨床指標が「ある」と回答したのは20.2%であった。

＜地域及び所属施設外での活動＞

1) 活動内容

地域及び所属施設外で行っている活動については、「教育機関における非常勤講師」が64.8%と最も高く、次いで「施設等の医療職への教育活動」60.3%、「一般市民を対象とした講演活動」47.7%、「学会や教育機関における委員会活動」44.6%であった。(図10)

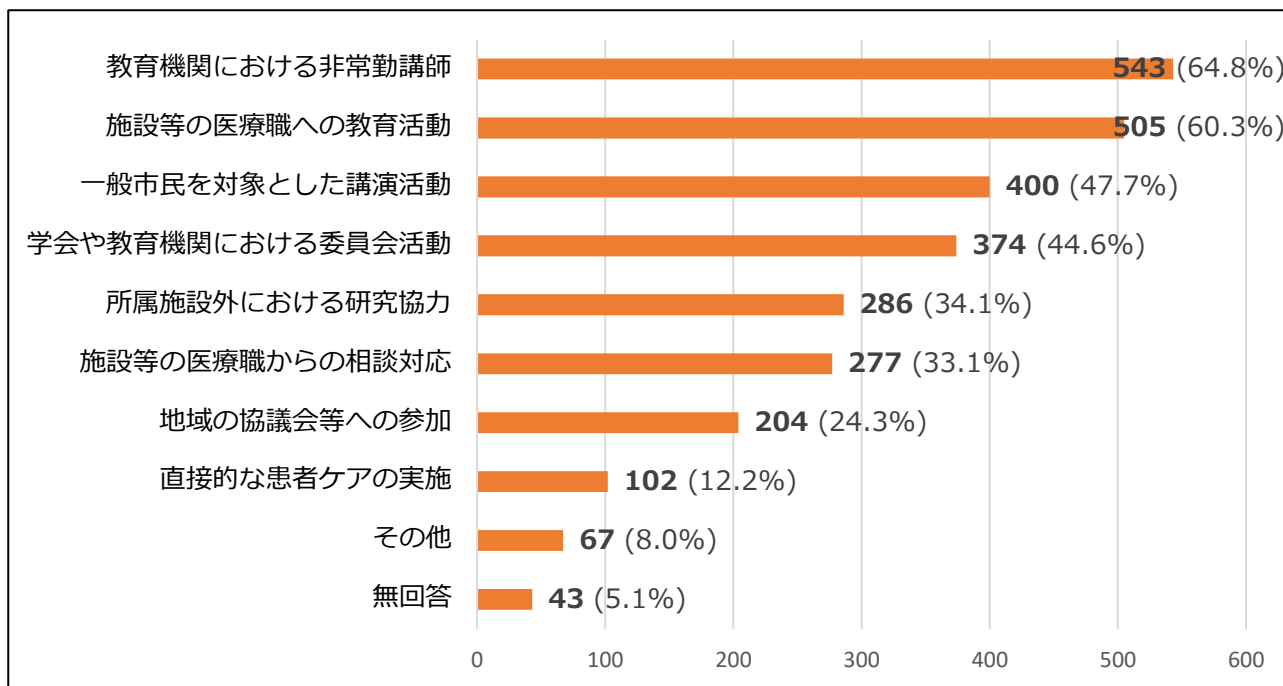


図10 地域及び所属施設外での活動（複数回答） n=838

2) 専門看護師間のネットワーク

「ある」と回答したのは、67.4%であった。

3) 活動の経緯

地域及び所属施設外での活動を行うこととなった経緯は、「直接依頼」が66.5%と最も高く、次いで「所属施設からの派遣」40.1%、「知り合いの専門看護師からの紹介」33.3%、「自らの働きかけ」20.0%、「ネットワークからの紹介」19.1%の順であった。(図11)

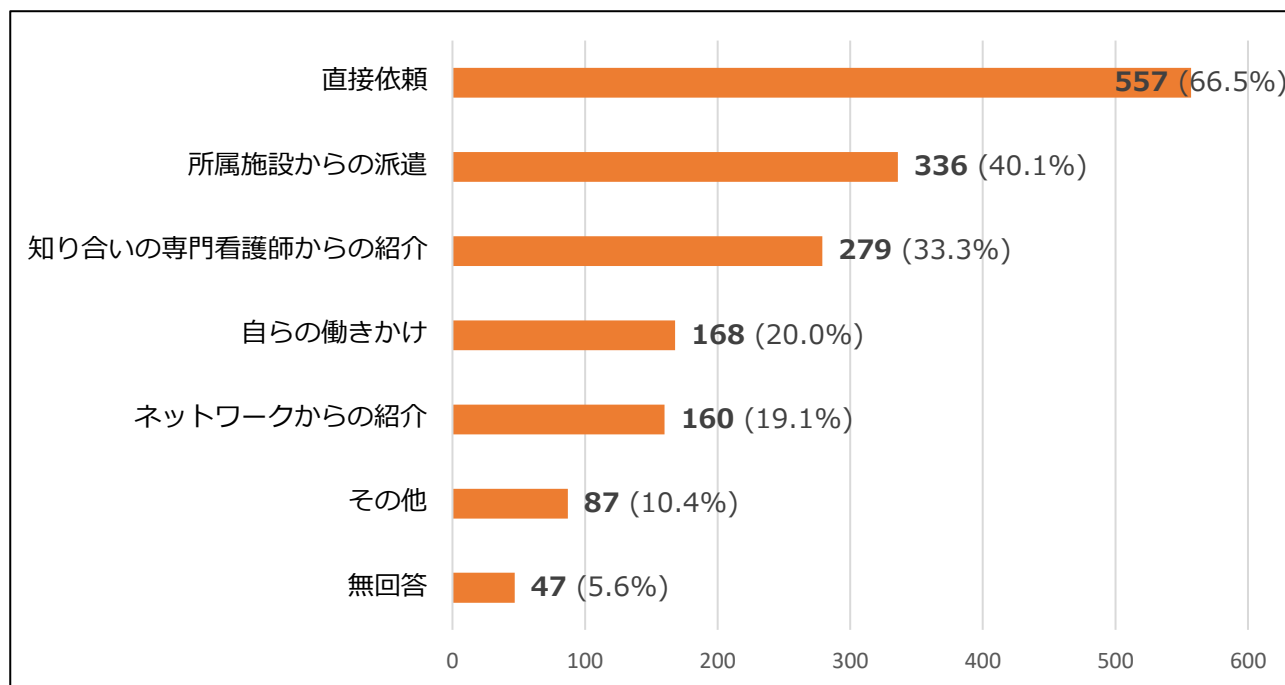


図11 地域及び所属施設外での活動を開始したきっかけ（複数回答） n=838

<職務満足度>

専門看護師としての職務に対する満足度について、「とても満足している」～「全く満足していない」の5段階で回答を求めたところ、「やや満足している」が31.7%で最も高かった。(図12)

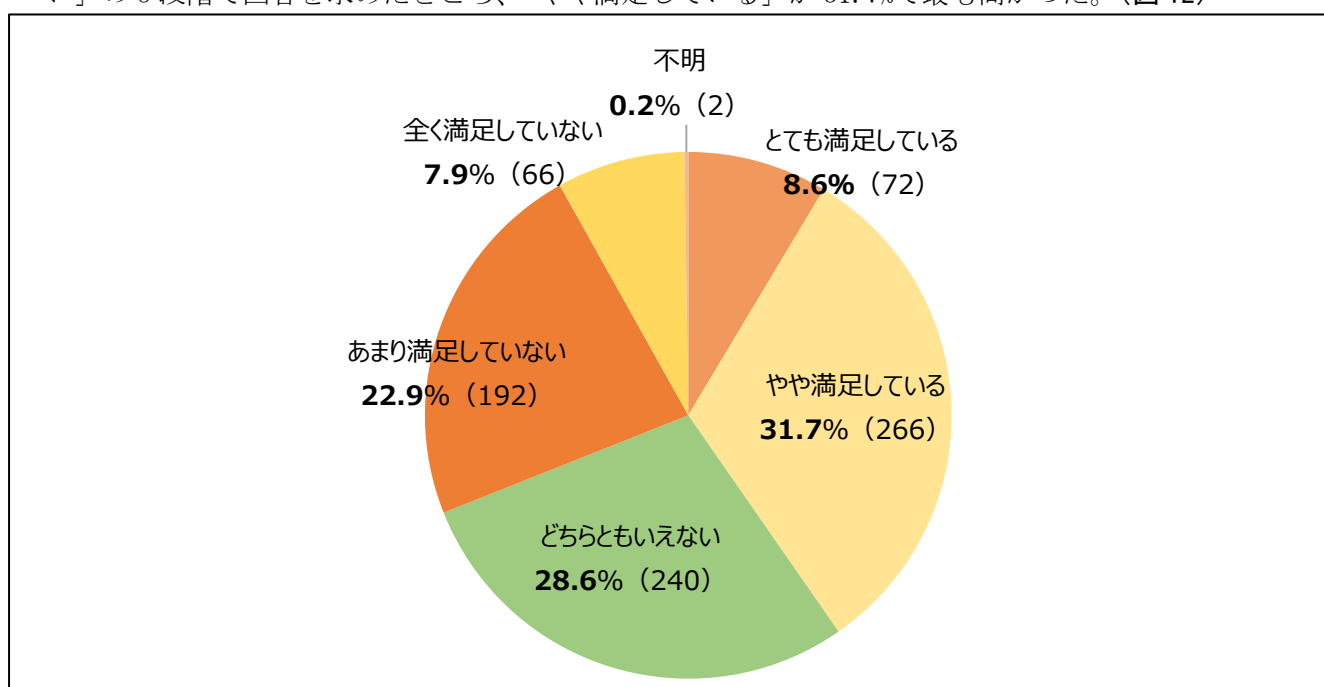


図12 専門看護師としての職務に対する満足度 n=838

専門看護師の活動実態調査 調査票

A. ご自身のことについておたずねします

1) 年齢

歳

2) 看護職としての通算経験年数は何年目になりますか。

*現在離職中の方は、離職した時点での年数をお答えください。また、最初に看護職として入職した年を「1年目」としてお答えください。

年目

3) 最終学歴について、下記のうち該当する番号を選択してください。

1. 修士課程（博士前期課程） 2. 博士課程（博士後期課程）

4) ご自身が修了した、専門看護師の教育コースについて伺います。

(1) 規定の就学期間について、下記のうち該当する番号を1つ選択してください。

1. 2年の修士課程 2. 3年以上の修士課程（長期履修） 3. その他（ ）

(2) 修了したコースは、専門看護師教育課程コース内（26単位/38単位）またはコース外のどれでしたか。下記のうち該当する番号を1つ選択してください。

1. コース内（26単位） 2. コース内（38単位） 3. コース外

5) ご自身の専門看護分野について、下記のうち該当する番号を1つ選択してください。

1. がん看護	2. 精神看護	3. 地域看護
4. 老人看護	5. 小児看護	6. 母性看護
7. 慢性疾患看護	8. 急性・重症患者看護	9. 感染症看護
10. 家族支援	11. 在宅看護	12. 遺伝看護
13. 災害看護		

6) 専門看護師資格取得後、何年目になりますか。

年目

7) 特定行為研修を修了しましたか。下記のうち該当する番号を1つ選択してください。

1. はい 2. 受講中 3. いいえ

8) 現在、就業していますか。

1. はい 2. いいえ

上記8)で「1. はい」と回答した方は9)～13)にお進みください。「2. いいえ」と回答した方は、大問Bにお進みください。

(5) 現在の職位について、下記のうち該当する番号を1つ選択してください。

1. スタッフ（非管理職）	2. 主任相当
3. 看護師長相当	4. 副看護部長相当
5. 看護部長相当	6. 副病院長（看護部長との兼任も含む）
7. 所長	8. その他（ ）

(6) 現在の職位について、下記のうち該当する番号を1つ選択してください。

1. スタッフ（非管理職）	2. 主任相当
3. 係長相当	4. 課長補佐相当
5. 課長相当	6. 次長相当
7. 部長職以上の役員・経営者	8. その他（ ）

(7) 現在の職位について、下記のうち該当する番号を1つ選択してください。

1. 非常勤研究員	2. 実習指導者
3. 助手	4. 助教
5. 非常勤講師	6. 講師（非常勤を除く）
7. 准教授	8. 教授
9. その他（ ）	

10) 現在の所属施設の勤続年数は何年目になりますか。

	年目
--	----

11) 配属部署・施設は専門看護分野と関連がありますか。下記のうち該当する番号を1つ選択してください。

1. はい	2. いいえ	3. どちらともいえない
-------	--------	--------------

12) 専門看護師として専従での配置ですか。下記のうち該当する番号を選択してください。

*専従とは、業務の8割以上が専門看護師としての業務であることを指します。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

13) 専門看護師として、毎月、資格手当が支給されますか。下記のうち該当する番号を選択してください。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

【13) で「1. はい」を選択した方は、14) にお進みください。】

【13) で「2. いいえ」を選択した方は、大問Bにお進みください。】

14) 資格手当について、下記のうち該当する番号を1つ選択してください。

※管理者としての手当では含みません。

1. 3,000円 未満の手当て	2. 3,000～5,000円 未満の手当て
3. 5,000～1万円 未満の手当て	4. 1～1.5万円 未満の手当て
5. 1.5～2万円 未満の手当て	6. 2～3万円 未満の手当て
7. 3～4万円 未満の手当て	8. 4～5万円 未満の手当て
9. 5～6万円 未満の手当て	10. 6万円 以上の手当
11. その他 ()	

B. 専門看護師資格の取得までの過程についておたずねします

< I. 修士課程（博士前期課程）進学から修了までの過程 >

1) 入学時の、看護職としての経験年数をご記入ください。

*1年に満たない期間は、切り捨ててください。

年

2) 専門看護師を目指した主な動機について、下記のうち該当する番号を全て選択してください。

(複数選択可)

1. 自己の課題の解決のため	2. キャリアアップのため	3. 知識・技術の向上のため
4. 専門性を深めたい	5. 教員に勧められた	6. 友人に勧められた
7. 専門看護師に勧められた	8. 上司に勧められた	9. 所属施設からの意向
10. その他 ()		

3) 入学前、教育機関を選択する時に重要視したことは何ですか。下記のうち該当する番号を全て選択してください。(複数選択可)

1. 教育機関までの距離が近いこと
2. 自身の出身大学であること
3. 入学時の受験要件を自身が満たしていること
4. 入学時の実務研修要件（臨床経験）を自身が満たしていること
5. 入学試験内容が、自身にとって受験しやすいものであること
6. 学費が安いこと
7. 奨学金制度があること
8. カリキュラムの内容が学びたい内容と合致していること
9. 指導教員の専門とする内容と自身が学びたい内容が合致していること
10. 学生数に対する教員数の比率が高いこと
11. 長期履修制度があること
12. 夜間・休日の開講があること
13. 修了者を多く出していること
14. 付属病院が併設されていること
15. その他 ()

4) 入学から修了までに要した年数をご記入ください。

*1年に満たない期間は、切り捨ててください。

年

5) 就学中の就労状況について、下記のうち該当する番号を1つ選択してください。

- | |
|--------------------------------|
| 1. 常勤職員として、所属していた施設で就労した |
| 2. 非常勤職員として、所属していた施設で就労した |
| 3. 施設に所属はしていたが、休職した |
| 4. 所属していた施設を退職し、就学中は仕事をしていなかった |
| 5. 所属していた施設を退職し、アルバイト等を行っていた |
| 6. 入学前（直近1年以内）に、所属施設はなかった |
| 7. その他（ <input type="text"/> ） |

【5)で「1.」もしくは「2.」を選択した方は、(1)～(5)にお進みください。】

【5)で「3.」を選択した方は、(3)(4)にお進みください。】

【5)で「4.」もしくは「5.」を選択した方は、(6)にお進みください。】

【5)で「6.」もしくは「7.」を選択した方は(6)にお進みください。】

(1) 就学するために活用した所属施設の制度はありましたか。下記のうち該当する番号を全て選択してください。（複数選択可）

- | | | | |
|-----------|------------|--------------|--------------------------------|
| 1. 長期研修制度 | 2. 短時間勤務制度 | 3. 奨学金・学費の補助 | 4. その他（ <input type="text"/> ） |
|-----------|------------|--------------|--------------------------------|

(2) 就学するために必要だと考える所属施設の制度は何ですか。下記のうち該当する番号を全て選択してください。（複数選択可）

- | | | | | |
|-----------|------------|---------|--------------|--------------------------------|
| 1. 長期研修制度 | 2. 短時間勤務制度 | 3. 休職制度 | 4. 奨学金・学費の補助 | 5. その他（ <input type="text"/> ） |
|-----------|------------|---------|--------------|--------------------------------|

(3) 就学中の賃金について、下記のうち該当する番号を全て選択してください。

（複数選択可）

- | | | |
|------------------|---------------------------------|-----------------|
| 1. 基本給の全額支給 | 2. 基本給の一部支給 | 3. 賞与の全額支給 |
| 4. 賞与の一部支給 | 5. 教育課程受験料の全額支給 | 6. 教育課程受験料の一部支給 |
| 7. 入学金や学費などの全額支給 | 8. 入学金や学費などの一部支給 | 9. 奨学金の支給 |
| 10. 支給なし | 11. その他（ <input type="text"/> ） | |

(4) 就学中、健康保険等の福利厚生はありましたか。下記のうち該当する番号を選択してください。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

(5) 就労継続のために所属施設で調整が必要となったことについて、下記のうち該当する番号を全て選択してください。（複数選択可）

- | | | |
|--------------------------------|-----------|-------|
| 1. 部署の配置の変更 | 2. シフトの調整 | 3. なし |
| 4. その他（ <input type="text"/> ） | | |

(6) 退職の理由について、下記のうち該当する番号を全て選択してください。(複数選択可)

1. 就業しながら学業を行う時間がない	2. 休職制度がなかった
3. 教育機関が職場から遠かった	4. 入学の要件で就業が禁止されていた
5. 家庭の都合(ライフイベント等)	6. 所属施設が、大学院進学を許可しなかったため
7. その他()	

6) 就学中に活用したもの(教育機関から提供された支援制度に限る)について、下記のうち該当する番号を全て選択してください。(複数選択可)

1. 学内の奨学金制度	2. 研究費の助成
3. ティーチングアシスタント等の学内就労制度	4. 研究フィールドの提供(付属の病院等)
5. 講義の開講時間の調整(夕方や休日開講等)	6. 学生寮の使用
7. 授業料の免除(一部免除も含む)	8. なし
9. その他()	

< II. 専門看護師認定審査受験までの過程 >

1) 修士課程(博士前期課程)修了から認定審査受験までの年数について、下記のうち該当する番号を1つ選択してください。

1. 半年未満	2. 半年以上1年未満	3. 1年以上2年未満
4. 2年以上3年未満	5. 3年以上4年未満	6. 4年以上5年未満
7. 5年以上10年未満	8. 10年以上	

2) 認定審査受験に際し、困難を感じたことはありますか。下記のうち該当する番号を全て選択してください。(複数選択可)

1. 看護実績報告書の作成	2. 実務研修要件を満たすこと
3. 家庭の事情	4. 就業しながらの受験勉強
5. 申請書類の準備(証明書等の取り寄せ)	6. 審査申請システムの使いにくさ
7. 困難を感じなかった	8. その他()

3) 認定審査受験にあたり、教育機関の指導教員からどのような支援を受けましたか。下記のうち該当する番号を全て選択してください。(複数選択可)

1. 申請書類作成の支援	2. 看護実績報告書作成の支援	3. 筆記試験の対策
4. 不安なことや困ったことがある場合、相談できる環境が用意されていた		
5. 支援は受けていない	6. その他()	

- 4) 認定審査受験にあたり、所属組織からどのような支援を受けましたか。下記のうち該当する番号を全て選択してください。(複数選択可)

- | | |
|-------------------------------------|--------------|
| 1. 当該分野への配置変更 | 2. 申請書類作成の支援 |
| 3. 看護実績報告書作成の支援 | 4. 筆記試験の対策 |
| 5. 不安なことや困ったことがある場合、相談できる環境が用意されていた | |
| 6. 支援は受けていない | |
| 7. その他 () | |

C. 専門看護師としての活動についておたずねします

< I. 所属施設内の活動 >

【A-9)で「1. 病院」「2. 診療所」「3. 社会福祉施設・介護保険施設等」を選択した方】

- 1) 所属施設内における専門看護師として活動されている場やチームについて、下記のうち該当する番号を全て選択してください。(複数選択可)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 病棟 | 2. 一般外来 |
| 3. 看護専門外来 | 4. ユニット (ICU等) |
| 5. 救命救急センター | 6. 地域連携室/在宅支援部門 |
| 7. 放射線室 | 8. 手術室 |
| 9. 化学療法室 | 10. 感染対策室 |
| 11. 緩和ケアチーム | 12. 呼吸ケアサポートチーム (RST) |
| 13. 院内救急対応 (RRT) | 14. 精神科リエゾンチーム |
| 15. 糖尿病関連チーム | 16. 在宅支援チーム |
| 17. 認知症ケアチーム | 18. 教育部門 |
| 19. その他 () | |

【A-9)で「5. 教育研究機関」を選択した方】

- 1) 教育研究活動以外に、専門看護師として活動されている場やチームがありましたら、下記のうち該当する番号を全て選択してください。(複数選択可)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 病棟 | 2. 一般外来 |
| 3. 看護専門外来 | 4. ユニット (ICU等) |
| 5. 救命救急センター | 6. 地域連携室/在宅支援部門 |
| 7. 放射線室 | 8. 手術室 |
| 9. 化学療法室 | 10. 感染対策室 |
| 11. 緩和ケアチーム | 12. 呼吸ケアサポートチーム (RST) |
| 13. 院内救急対応 (RRT) | 14. 精神科リエゾンチーム |
| 15. 糖尿病関連チーム | 16. 在宅支援チーム |
| 17. 認知症ケアチーム | 18. 教育部門 |
| 19. その他 () | |

- 2) どのような行動が活動の場を確保するために役に立ちましたか。下記のうち該当する番号を全て選択してください。(複数選択可)

1. 組織分析による課題の抽出	2. 活動計画書の作成
3. 活動計画についてのプレゼンテーション	4. 活動報告書の作成
5. 報告書についてのプレゼンテーション	6. その他 ()

- 3) 専門看護師の6つの役割「実践」「相談」「調整」「倫理調整」「教育」「研究」について、どの程度**成果をあげているか**「1:全くない～3: かなりあげている」のうち当てはまる番号をそれぞれ1つ選択してください。

	全くない	多少あげている	かなりあげている
(1) 実践	1	2	3
(2) 相談	1	2	3
(3) 調整	1	2	3
(4) 倫理調整	1	2	3
(5) 教育	1	2	3
(6) 研究	1	2	3

- 4) 専門看護師の6つの役割「実践」「相談」「調整」「倫理調整」「教育」「研究」のうち、**最も成果をあげたと感じる役割**について、下記のうち該当する番号を1つ選択してください。

1. 「実践」	2. 「相談」	3. 「調整」
4. 「倫理調整」	5. 「教育」	6. 「研究」

- 5) 上記4) で選択した役割による成果を具体的にご記入ください。(200文字以内)

--

- 6) 専門看護師の6つの役割「実践」「相談」「調整」「倫理調整」「教育」「研究」のうち、**最も困難を感じる役割**について、下記のうち該当する番号を1つ選択してください。

1. 「実践」	2. 「相談」	3. 「調整」
4. 「倫理調整」	5. 「教育」	6. 「研究」

- 7) 上記6) の役割が困難と感じる理由をご記入ください。(200文字以内)

--

- 8) 活動の場や役割を拡大するためにご自身が実施していることのうち、最もうまくいったと感じる事例を具体的にご記入ください。(200文字以内)

--

- 9) 当該分野や他分野の専門看護師との連携の有無について、下記のうち該当する番号を選択してください。
「1. 有り」と回答した方はその内容をご記入ください。

1. 有り (内容: _____) (100文字以内)
2. 無し

- 10) 活動にあたり、困難を抱えた際の相談相手はどなたですか。下記のうち該当する番号を全て選択してください。(複数選択可)

1. 直属の上司	2. 同施設内の専門看護師(同分野)
3. 同施設内の専門看護師(他分野)	4. 同僚の看護師
5. 所属部署以外の上司	6. 他職種(_____)
7. 専門看護師教育課程の教員	8. 所属施設外の専門看護師(ネットワーク)
9. その他(_____)	10. 誰とも相談をしなかった

- 11) 自身の活動により診療報酬上の評価が認められている項目について、下記のうち該当する番号を全て選択してください。(複数選択可)

1. 在宅患者訪問看護・指導料 3	2. 緩和ケア診療加算
3. 精神科リエゾンチーム加算	4. 感染防止対策加算 1
5. 呼吸ケアチーム加算	6. 認知症ケア加算 1
7. 特定集中治療室管理料 1	8. 特定集中治療室管理料 2
9. 糖尿病合併症管理料	10. がん患者指導管理料イ
11. がん患者指導管理料ロ	12. 外来緩和ケア管理料
13. 糖尿病透析予防指導管理料	14. 同一建物居住者訪問看護・指導料 3
15. 加算にはつながっていない	16. その他(_____)

- 12) 専門看護師としての活動の成果や効果を評価するための臨床指標はありますか。下記のうち該当する番号を選択してください。

「1. 有り」と回答した方はその内容をご記入ください。

1. 有り (具体的な指標: _____) (200文字以内)
2. 無し

< II. 地域及び所属施設外での活動* >

* 「地域及び所属施設外での活動」とは、概ね二次医療圏での活動を指します。

- 1) 地域及び所属施設外での活動について、下記のうち該当する番号を全て選択してください。

(複数選択可)

1. 直接的な患者ケアの実施	2. 施設等の医療職からの相談対応
3. 施設等の医療職への教育活動	4. 一般市民を対象とした講演活動
5. 学会（査読委員など）や教育機関における委員会活動	6. 教育機関における非常勤講師
7. 地域の協議会等への参加	8. 所属施設外における研究協力
9. その他（ ）	

- 2) 地域及び所属施設外での活動で、最も成果をあげたと感じる事例を具体的にご記入ください。

(200 文字以内)

--

- 3) 専門看護師間のネットワークの有無について、下記のうち該当する番号を選択してください。

1. 有り	2. 無し
-------	-------

- 4) 3) で「1.有り」と回答した方は、「名称」及び「ネットワークの活動内容」をご記入ください。

*複数ネットワークが有る場合は、主なもの一つをご記入ください。

「名称」

--

「ネットワークの活動内容」

--

- 5) 地域及び所属施設外での活動はどのようなことをきっかけに開始していますか。

下記のうち該当する番号を全て選択してください。（複数選択可）

1. 直接依頼	2. ネットワークからの紹介	3. 所属施設からの派遣
4. 自らの働きかけ	5. 知り合いの専門看護師からの紹介	6. その他（ ）

< III. 専門看護師としての職務に対する満足度 >

- 1) 専門看護師としての職務に対する満足度について、「1：とても満足している～5：全く満足していない」のうち該当する番号を1つ選択してください。

1. とても満足している	2. やや満足している	3. どちらともいえない
4. あまり満足していない	5. 全く満足していない	

< IV. 専門看護師としての活動に必要な支援 >

- 1) 専門看護師としての活動にあたり、所属施設から受けた支援（同僚等からの協力等も含む）がありましたらご記入ください。

*複数ありましたら、活動の推進力となる主なものをご記入ください。（500 文字以内）

--

【ご意見、ご要望について】

今後の専門看護師の活動に対して日本看護協会や関連団体に期待することや要望などございましたら、ご自由にご記入ください。

設問は以上となります。ご協力いただき誠にありがとうございました。

